
恋人同士の情景

桜アサノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋人同士の情景

【Nコード】

N4809S

【作者名】

桜アサノ

【あらすじ】

ある男と女の日常の一幕。

ショーウィンドーを飾る、個性的なボトル達。

香水は、その香りもだが、器も絵になる。

テスターに手を伸ばし、品定めをする恋人を、優しい瞳で見つめていた男は、アドバイスを求められて、二言三言、自分の意見を伝える。

やがて、彼女は選んだ商品を手に、レジに向かい。

店先で待つ彼は、手持無沙汰に、置かれているサンプルを幾つか、試していた。

「お待たせ」

自分の買い物だからと、彼の手出しを許さない彼女　彼はそんな彼女の気質を気に入っている　は、バッグに品物をしまいながら、早歩きで彼の元へと戻ってきた。

「行こうか」

「うん」

並んで歩き出す。ごく自然に。

それが様になるくらいの時間を、過ごしてきたのだと、周囲がわかるくらいに、二人の歩みは、自然だった。

「香水なんてものは」

男がふつと、口にした。

女は首を傾げ、斜めに見上げながら、続きを促す。

「相手が自分を思い出してくれるよりどころでいいんだよ」

そう言いながら、男は、するりと、女の滑らかな頬に指を這わせた。

「私……そんなのなかったって、あなたの事考えてる」

「それならいいのだけどね」

溜息をついて、男は、また指を滑らせる。

円やかな頬は、ほんのり熱を孕み、またそれが、心地よくて、目を細め、彼は、囁いた。

「君は、私の事だけ、見ていればいい」
ふわりと。

彼女から香る、己のものと同じ香。

満足げに笑う男の顔に。

「我儘ね」

「そう？ 当然の要求だと思っけど」

困ったような微笑を返す女も。

満たされた色の瞳をしている。

「そうね」

艶やかな唇から、零れる言葉。

「あなたが、私の事だけ見てくれるって言うなら、いいわよ？」

「我儘だね」

「そうかしら？」

当然の要求よ、と楽しげに笑う彼女に。

すつと差し出された手。

「それでは行きましょうか、お姫様」

「ええ」

するりと絡む腕。

その自然さもまた、二人の間の時間が降り積もった結果だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4809s/>

恋人同士の情景

2011年10月8日19時15分発行